



シルバー インフォメーション ルーム

神戸市東灘区本山北町6丁目2-13

電話(代表) 078(431)6008

FAX 078(431)6008

1998年1月10日発行

第 8 号

介護保険制度下での在宅介護のゆくえ

坪 光子

平均寿命が年々伸び、65歳以上の人が総人口に占める割合が昨年9月現在15.6%、70歳以上が10.3%になっています。その内、要介護者は280万人と云われています。40歳以上の国民すべてが加入する公的介護保険制度が2000年度にスタートすることになり、法案が成立しても、費用やサービス内容、基準については、一般にはみえてきていません。介護保険法が施行されますと、今までの与えられるサービスでなく、自分の介護について何を望みどのようにするのか、要介護本人が決めることができ、サービスは金額的に制限があるものの、自分の好きなように組み合わせる事ができるようになります。保険給付は6段階（虚弱、軽度、中度、重度、痴呆、最重度）に分けられ、月額6万円から29万円程度となり、自己負担は1割です。一応表面的に制度の大筋は決まっていますが、中身の細部については不安材料が一杯です。施設、ヘルパーの数が圧倒的に少ない今の社会状況で、どれだけ在宅で要介護老人が生活していけるか疑問です。まわりを見回しても独居老人や老々介護の人が多くなって

おり、どれだけその人の住む地域社会で支えていけるかが問題だと思えます。また、家族の負担も大きくならないように考えねばならないと感じています。保険の主体が自治体になることで、今までより身近かな視点でサービスが展開されていくことが望ましく、そのために我々が要求、希望をしっかりと伝えていかねばならないと考えています。施設整備や人材育成の遅れを憂うだけでは何も前に進みません。60歳以上の人の意識調査で「人との交流」が生きがいのトップとなっています。高齢社会が暗いイメージになりがちですが、元気で意欲的に社会参加をしてしている人も多く、ボランティア活動などにも自分の生きがいを求めている人がたくさんいます。そういう人材を生かしてヘルパーをはじめ地域社会に役立つ社会参加の道が見つけられればと思います。ハード面も、特養などで得られた老人介護のノウハウを生かし、小規模のケアハウスなどが沢山できれば理想的です。今後様々な問題が起こってくると思いますが、我々一人一人が努力して小さい事から解決していく事が肝心です。

“襪”では、ご老人が各市町村で利用できる施設や施策を紹介しています。
6号では「老人保健施設」7号では「ケアハウス」をご紹介しました。今回は「デイサービス」「デイケア」についてご紹介いたします。参考になさってください。

デイサービスとは

65歳以上で在宅の虚弱及び身体障害者や痴呆症状や寝たきりなどのため日常生活に支障がある者を対象としています。入浴サービス、給食サービスなどの各種サービスを提供し、おとしよりの社会的孤立感の解消や心身機能の維持向上などを計ります。また、介護している家族の身体的、精神的な負担の軽減を計ることが目的です。

詳しくは、各福祉課の窓口へお問い合わせください。

デイサービス申し込み 各地区福祉事務所

(参考までに神戸市内の福祉事務所の電話をご紹介します。)

◆ 神戸市内 東灘区	841-4131	長田区	579-2311
灘区	871-5101	須磨区	731-4341
中央区	232-4411	垂水区	708-5151
兵庫区	511-2111	西区	929-0001
北区	593-1111		

デイケアとは

運動障害や精神障害(痴呆症)のある患者さんの心身機能の回復または維持を目的とし、治療の一環として専門のスタッフ(理学療法士、作業療法士、介護福祉士)により日常生活動作の訓練を行います。

詳しくは、各医療機関へお問い合わせ下さい。

デイケアのリスト

(兵庫県内の一部のみご紹介いたします。詳しくはお問い合わせ下さい。)

◆ 神戸市内	◆ 芦屋市	安東整形外科	0798-32-1660	
《東灘区》宮地病院	451-1221	◆ 西宮市	仁明会病院	0798-71-3001
《灘区》西病院	821-4151	◆ 尼崎市	畠中整形外科	06-418-7146
灘医療生協	802-3424		大原病院	06-411-3124
《中央区》森本クリニック	221-3351		阪神医療生協	06-492-0122
東神戸診療所	231-9031		尼崎医療生協	06-416-0325
《長田区》神戸協同病院	641-6211	◆ 明石市	中山外科	078-935-6060
兵庫病院	671-2516		神戸医療生協	078-941-5725
適寿(病院)	612-5533		神明病院	078-935-9000
神戸医療生協	577-1281			
《垂水区》神戸徳州会病院	707-1110			

民間デイサービス “マルタ”

所在地: 神戸市東灘区内

私達のグループは「阪神淡路大震災」後、痴呆性老人を抱える知人、家族の方からの強い要望により出来た登録ボランティア10名の民間のグループです。

(現在はボランティア8名利用者6名)

《1日の過ごし方》

- ・毎週水曜日: 5~6人の利用者宅へタクシーでお迎えに伺います。
- ・お茶の時間: 10時頃には全員が揃います。このティータイムに皆さんの体調、状態が判ります。
- ・健康チェック: ナースの出番です。
- ・軽い体操: 肘、指と座ったままの状態、体をほぐす程度です。これも今では出来ない人もいます。
- ・トイレ誘導: 20分位かかる人もいます。
- ・昼食: スタッフによる手作りの献立です。
- ・レクリエーション: 折り紙、散歩、工作などその人の残存能力にあわせて行います。
- ・おやつの後: 童謡、唱歌、なつメロと楽しい歌のひとつときです。
- ・帰宅準備: 3時30分、気の抜けない時間帯です。全員をタクシーでお送りして1日が終了します。

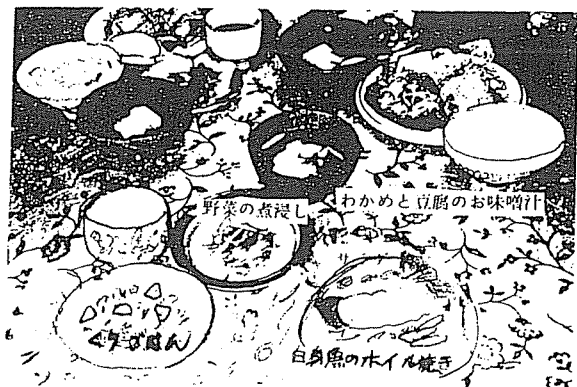


利用者の家族より、介護の悩み、問題などの相談を受けることもあります。家族の方もデイサービス、デイケア、ショートステイ、老健施設等を利用しながら、一日でも長く在宅介護を続けられるよう望んでおられます。この要望に応えるためにも、一人一人の個性を尊重し、「絶対無理をしない、慌てない、急がない、のんびり」をモットーに頑張っております。この事は痴呆性老人だけでなく高齢者全般に共通する事だと思います。高齢者の方は介護する者の言葉、態度を敏感に感じられているようですから……。

この2年間、場所捜しなどで何度も「もうやめようか」と思いながらも続けてこられたのは高齢者の皆さんの笑顔、やさしい言葉、家族の方との信頼関係があったからだと思います。

これからも小人数でアットホームなデイサービスができればと望んでいます。

中釜 真弓



総合提案館 ATC エイジレスセンター

— 1997年7月22日 —

豊かで、明るく活力のある高齢社会をめざし、福祉・介護・医療・住宅・通信・レジャー・スポーツなど、あらゆる分野で新しい生活の提案、展示をしています。5000㎡の広大な施設には単なる介護機器の展示場だけでなく、車椅子、電動三輪スクーター、装具をつけての高齢体験、リハビリに役立つバーチャル体験、簡単な高齢者向きのスポーツレジャー体験、体力健康づくりのためのゲームなどさまざまな体験の場も擁し、全国初の試みとして注目されています。絶えず多くの団体の見学者があり、又、介護や福祉のシンポジウム、講座などが定期的で開催されています。交通の便としては、バスの他ニュートラムと地下鉄に新駅ができ、車も湾岸線を利用すると当ルームから30分余りで行くことができ徐々に便利になりつつあります。

ATCエイジレスセンター主催の講座「老いを生きるシリーズ」で、当ルームも共催しました。

大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟11F

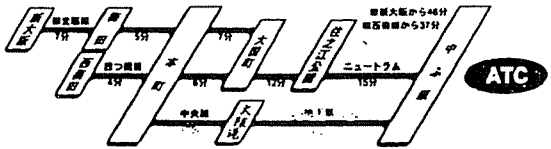
交通のご案内

●モスクエア・シャトルバス利用の場合(大阪市中心部より約30分/9:00~11:00まで運行) 料金は360円



●リムジンバス利用の場合(所要時間約45分) 料金は1,300円

●地下鉄・市バス・ニュートラム利用の場合(乗り換え時間は含みません)



●自転車利用の場合



※阪神高速湾岸線・天保山方面からお越しの場合は南港北出入口より、東・大阪湾部方面からお越しの場合は南港北出入口より、「インテックス大阪」方面へ、(近畿ビルWTC前)

※関西国際空港及び大阪国際空港より約30分。

にこにこデイケアセンター

宮地病院

1997年12月15日

震災で病院が全壊し、仮設の診療所で医師と看護婦さんが精力的に老人問題に取り組んでこられ、昨年、在宅支援の拠点として各診療科と共に再建されました。デイケアセンターは、明るくモダンな待合室を通り5階にあります。訪問したときは月曜日で午後から入浴がありました。10人ほどのお年寄りがまるく輪になって、ピンクの服を着たスタッフとリズム遊びをしていました。私達も輪の中に入り、自己紹介をした



り、手作りの歌詞カードを見ながら次々と歌を歌いました。家に居れば、一人でじっとテレビを見てしまい、動かないことが多いでしょう。スタッフが一人一人の顔を見ながら輪の中に誘い入れます。手提げを握って離さない人も声をかけてもらい、うれしそうにしていました。この病院では月・火・水・金・土曜日、午前9時から午後3時まで開所、地域により送迎もあります。

平成9年6月29日
生活文化センターにて

ノンフィクション作家

— 沖藤 典子 氏 —

老後を生きてゆくために必要な柱が4つあると思う。健康、経済、生きがいは昔から言われているが、もう一つ情報が必要な要素と考える。しかし、一人の人間がすべての情報-福祉、介護、医療-を持つことは不可能である。だから一般人が持つべき情報は、どこへ電話をすればよいか、どこへ行けばよいか、と言うルートを知っていることである。いろいろな情報をシステムとして管理している地域活動がこれから大切になる。

私が老人問題を考えるきっかけになったのは父の生き方であった。

母が死んだ後、父は幾つかの選択肢の中から、北海道を出て関東に住む娘と一緒に暮らす道を選んだ。父との5年間の生活は、共働きで小さい子供との生活を助けられたし、心温まる思い出を残すことが出来た。父の発病と夫の転勤が重なったのは、私の36歳の時で、まだ老後を考える準備も出来てなく、子育て真っ最中の所へ、介護問題が持ち上がったのである。仕事は続けたいし、子供のことがある。誰かに助けてもらいたいと思っても、誰も助けてくれる人はなかった。

当時ホームヘルプ制度はあっても所得制限があった。昭和57年既に所得に関係なく手助けが必要な時代になっていたので、地域における介護サービスとしては、ホームヘルプだけでなく色々なサービスが連帯して、ネットワーク化していないとおかしいと思った。介護の為に会社をやめなければならない社会は大変

な社会の損失である。年間8万人の女性が介護の為に仕事を止めていた。地域における介護の社会化と働く女性を守る介護休業制度を提案し、その後、介護休業制度は95年に律法化された。

父の死後、特養で働いた経験から、介護がこれからの重要なキーワードと思った。

介護は地域で支えなければ、家族が多様化しているし、介護者の年齢のことを考えても、サービスを社会化する必要がある。介護の社会化は家族のきずなを深めることだと考える。自分の老いを考える時、子供に依存しないで住み慣れたわが家で過ごしたいと思うと、それを支えるのがホームヘルプ制度である。この制度には、色々な年齢層、色々なタイプの男女がかかわることが必要である。

私達は火の始末と金勘定が出来る間は、地域のサービスを色々選択して、それに助けられて老いを生きてゆけるのである。

24時間365日の介護システムがあって、自分の家がナーシングホームとなる。

我が家で出来るだけ暮らしてゆく為に日頃から自立した生活が出来る必要がある。親というだけでは尊敬されない。両親は頑張っているから、子供達も自分達の生活をしっかり生きなさい、といった自立した親子関係を作っていく事で親子のきずなも深まる。そう言ったシステムを作り、意識変化をしてゆく事が介護から始まる老いの変革となると考えている。

東灘復興記念事業

第5回地域医療シンポジウム

「痴呆とつき合う」

1997年11月22日

於 東灘区民センター「うはらホール」
基調講演 早川 一光先生を聞いて

『人生は、生、病、老。生まれた時から老がついて来ます。年を取ると心が固くなっていくので、元気な間から覚悟が必要。結局だれかの世話になりながら年をとります。だから看取られる側が上手に看取られるようにすればよいので、「この頃の嫁は」ではなく、「ありがとう」と言うだけでもよいのです。介護、看護は互いに人間の心が行き来します。その間に仏のような老人に、菩薩のような嫁にどう変わって行くか。看取りが終わったとき「ああ、いいおばあちゃんだった」「惜しい」と人に思わせるような老人にならねばなりません。又、医師も患者の臓物を治すのみでなく、心の中の垢を取る医師になるよう努力せねばなりません。

私は痴呆という言葉は“ボケ”老人には不相当だと思っています。「痴」とは、しれものと言う精神科が使う言葉で、「ボケ」とは、ほうけるということで、ぼうっとしている、ねぼける、とぼけると言う意味があり、人間から見て自然のたくみです。物忘れは消しゴムで消しているみたいなことで、ぼけは病気ではなく、妙薬であり、死の恐怖も消して行ってくれます。人間学として、ぼけを見たら良いのであり、病も、老いも、死も決して異常ではありませんし、避けられないものがあります。ゆうゆうと生き、どうどうと老いましょう。』

この基調講演のあと、早川先生もお加わりになり、シンポジウム「痴呆老人と地域医療」について、長田保健所の奥山、特養施設長 折田、精神科医 佐々木、呆け老人をかかえる家族の会 室屋の各氏の話があり、これからの行政、医療、施設と家族との連携の大切さと、方法が活発に討議されました。

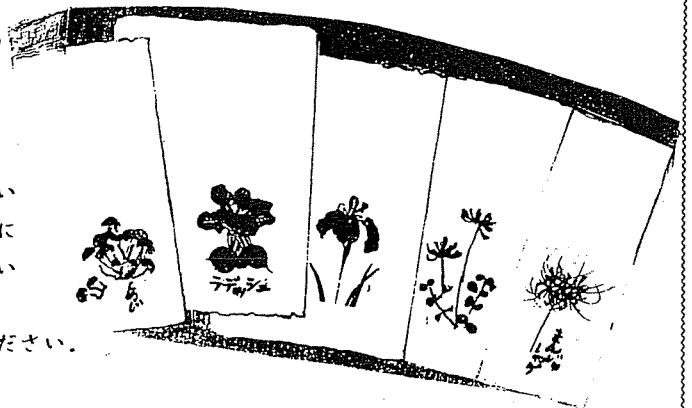
“和紙絵すき込みはがき” の販売について

シルバー インフォメーション ルーム
では、活動資金の一助にと手漉き和紙の
えはがきを販売しています。長野県
安曇野の「風鈴堂美鈴」のご好意により
安く卸して頂いております。

このすき込みの方法は、昔から受け継い
ている和紙漉き工程の途中で別の和紙に
絵付けした部分と漉き込んでいく新しい
手法です。

ご購入の方は当ルームへお申し込みください。

《 5枚一組・・・600円 》



☁ 当ルームに寄せられた相談より ☁

ケース1

西宮に住む88才と86才の両親について、東京に住む嫁からの相談。父親は退院後老健に入り、痴ほうは出ているが、車いすから歩行器が使えるまでになった。3カ月が過ぎ、退所を勧告されている。母親は、足の手術をして、退院後はお手伝いさんと暮らしているが、父親の介護はできない。東京へも絶対に行きたくないと言っている。

対応

東京から来て、3カ月ごとに老健を探すのは大変だが、制度上しかたがない。他の老健を紹介するとともに、介護型の有料老人ホームへの入居も考えて見られるように話した。

ケース2

94才のまだらボケのある祖父が同居することになった3世代同居の42才の孫嫁からの相談。どのように世話をしたらよいか分からない。また、73才の義父は、自分の父親のボケて行く状態を受け入れる事ができず、怒鳴り散らし、精神的ストレスによるイライラがひどい。どのように対処したらよいだろうか。

対応

専門医に相談されるのが良いかと思われるので、その旨のアドバイスをした。佐々木健著「ボケても心は生きている」の本の例等を話し、少し気が楽になられたようである。二代にわたる老人に対応する若いお嫁さんの大変さを思い、ヘルパー、老人施設、老人医療などの充実が急がれる。

ケース3

60才代の男性が10年程前に脳出血を起こし、入院した病院で院内感染にかかり、ICUに3カ月いたためリハビリが遅れ、麻痺が残っている。妻と二人ぐらして介護の手が足りないため転院を繰り返しながら現在に至る。今入院している病院から退院勧告を受けているが、相談者(妻)は在宅で介護する自信がなく、リハビリも続けたいと思っている。

対応

老健、老人病院、特養等各施設の内容の違いを理解してもらうように細かく説明し、資料を送付した。それを参照して、特養をいくつか見て回られ、入所できるように福祉事務所に申し込まれた。長い闘病生活の間、相談する所もなく悩んでおられたが、時間をかけてお話しを伺っているうちに先が見えて来られたようである。

ケース4

別棟に住む母親の部屋からぼやが出た。新型の電気調理器具の誤使用が原因だが、消火活動で部屋が使えなくなり、修理をする間預かってもらえるところはないか。

対応

短期入所のできる有料老人ホームがあるので紹介した。修理後家に戻られたら、電磁調理器に変えられるよう勧める。一人暮らしでは場合によっては給付も受けられる。

☆ 老人問題相談室 ☆

シルバー・インフォメーションルーム

相談日・・・毎週 月、木曜日 10時～16時

電話・Fax・078-431-6008

どんな問題でもお気軽に電話、または来所してご相談ください。

無料で情報を提供したり、ご相談に応じます。



多くの方々から、ご支援のお申し出を頂きました。厚くお礼申し上げます。情報提供活動に有効に使わせて頂きます。

賛助会員、ご寄付下さった方々

1997年6月1日～12月31日（敬称略）

合田 祥子	其原久美子	瀧川 紀子	長谷川信夫	前田 明成	沼田久仁子
沖藤 典子	吉田 幸子	中西美南子	坂野 恭子	(株)ライフライン大江 克芳	
上川 いづ子	中田智恵海	小野嶋文世	堀口 淑子	杉江 祥子	竹内 多代
堤 年子	野口すみ子	服部 靖子	掛井喜美子	老健 青い空の郷	
尾松 鈴子	藤原 淳恵	橋元ルリ子	経免 和代	宮本 淳子	野村 悦子
片山 恵	政岡 常数	川島知栄子	岡本 晴恵	栲木タマ枝	塩見 武二
飯尾 寛子	浅川 洋子	阿部 侑子	草地 規子	植田 貴子	桧和田倫子
郡 あや子	川北 律子	山内 滋子	中村小夜子	太田 恵子	宮地病院
牧原 秀雄	赤松恵美子	上田 慶子	久保ミツエ	大橋 早苗	東福 フミ
森 幸子	桂田 克子	南原 順子	加茂富美子	板垣 節子	坂本富士子
阪田 明子	(株) 今竹	福智 盛	岡本由紀子	宮本 英男	伊藤めぐみ
福智 艶子	篠田 光子	檀辻 嘉雄	神田 英作	松井 久典	中村 順子
宇田 良子	小松美由紀	藤田 陽子	川那辺裕子	布施 典子	楠田 良子
岩佐 康子	熨川アサコ	高橋 嶺子	大西富美子	白磯 辰知	西部 明子
川村 昌子	渡辺 滋子	白石 清子	芝原 陽子	大竹 和子	大西 邦子
福中 京子	仁田 照子	小山 武	砂野 瑛子	梁 勝則	岡島 敬
菊川 豪	栗木 順子	東福 静江	末田わか子	菊本 澄子	山田奈加子
海戸みど里	前川 和子	長谷川 倫	尾崎 京子	都築いく子	覚道 通子
児玉 道子	伊藤 幸子	井出 澄子	布垣 明子	コープリビング甲南	
新居 欣造	新居佐和子	松本 圭子	小林 公江	木田悠紀子	小林 繁
			上田 慶子	江藤 幹枝	藤森 敏夫
			佐藤 道子	小西喜代子	恒岡小三郎
			松縄 順子	阪本祐徒子	山田真知子
			大村 静子	甲子園二葉教会婦人会有志	
			横山 薫恵		

編集後記

あつと言う間に1997年も過ぎ去り、また新しい年が始まりました。老人問題も深刻化しても、一向に改善される様子もありません。国会では介護保険法案が通過し、私共もそのことをしっかり受け止め、適切な対処ができるように勉強をしなければならないと気を引き締めております。昨年末には、相談件数も1100件になりました。開設当時とは、相談の内容も異なって来ましたが、ご老人を介護する方々も、お年寄りご自身もさまざまな問題や不安を抱えて居られます。その方達のためにますます頑張りたいと思います。

今年6月には、開設5周年をむかえ、本年の講演会は3周年の時に大好評を得ました永 六輔氏に再びご講演をお願いしようと、ただ今交渉中です。どうぞご期待ください。又、この“櫻”も次号は5周年記念号として、ご相談頂いた方の中から幾人かの方々に体験談やご意見などをお書き頂き、現在またはこれからのお年寄りの介護に役立てばと思っております。この号では、老人介護のための情報を幾分なりともまとめて、お伝えしたいと企画中です。

皆様のご意見、ご感想が我々の活動並びに、機関紙“櫻”作りの励みになります。どうぞ、ご遠慮なくお寄せくださいますようお願い申し上げます。

本年の皆様方のご健康と、ご多幸をお祈り申し上げます。

